

## 令和4年度 年末年始における 県内の主な温泉地及びスキー場の観光客数の状況について

### 1 調査期間

令和4年12月29日（木）から令和5年1月3日（火）まで（6日間）

### 2 結果概要

#### (1) 県内主要温泉地宿泊者数

	R4年度	R3年度	R3年度比	(参考)R元年度比
草津温泉	33,879人	35,573人	95.2%	65.1%
水上温泉郷	26,015人	34,400人	75.6%	63.7%
伊香保温泉	21,800人	22,576人	96.6%	66.7%
四万温泉	7,862人	8,078人	97.3%	75.4%
万座温泉	6,876人	7,500人	91.7%	66.1%
老神温泉	3,739人	4,377人	85.4%	69.7%
猿ヶ京温泉	3,544人	3,554人	99.7%	67.1%
磯部温泉	2,871人	3,183人	90.2%	90.1%
やぶ塚温泉※	132人	726人	18.2%	14.6%
計	106,718人	119,967人	89.0%	66.2%

※やぶ塚温泉における宿泊者数の主な減少要因は宿泊施設の休業によるものです。

#### (2) 県内スキー場地区別利用者数

	R4年度	R3年度	R3年度比	(参考)R元年度比
片品地区	57,085人	57,816人	98.7%	97.8%
吾妻地区	46,903人	49,040人	95.6%	88.0%
水上地区	41,160人	46,062人	89.4%	120.6%
その他地区(※)	27,078人	29,588人	91.5%	71.7%
計	172,226人	182,506人	94.4%	93.8%

※その他地区＝沼田市・川場村

### 3 概況

#### (1) 県内の主な温泉地の宿泊状況について（温泉地等への聞き取りによる）

- ・ 宿泊客数の減少要因として、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの感染拡大の影響により、各温泉地において直前のキャンセルが多かったことがあげられます。
- ・ 温泉地によっては、感染予防対応や長引くコロナ禍の影響等による従業員不足により、客室稼働率を引き下げて営業を行っていた状況等もありました。

#### (2) 県内スキー場利用状況について（スキー場への聞き取りによる）

- ・ 昨年度を上回る利用者数となったスキー場もあったものの、全体の傾向としてはスキー場のオープン時期の遅れや、年末における日本海側を中心とした大雪の影響等により利用者数が減少したものと思われまます。

※本調査は、対象市町村、観光協会等が温泉地の宿泊者数及びスキー場利用者数を調査し、県及び県観光物産国際協会が集計したものです。